故 松尾力雄教授 追悼号の発行によせて

教授会構成員のご厚志により，松尾力雄教授が闘病中の九州小倉の病院へ，学部を代表して，平成12年８月にお見舞いに行かせていただいてより，あまりにもわずかの期日で，また64歳というお年で御逝去されたことは，誠に残念でなりません。

先生は，ヘンリー・ソーロウやローレンス・スターンを主として研究され，主著に「ヘンリー・ソーロウの世界―感性の哲学」，「ローレンス・スターン研究」を出され，さらには，アリストテレスまでもその研究範囲にされるような，幅の広い研究活動をなされていました。また，学生の教育にも御熱心で，英語をご担当なさっていましたが，なぜか白衣を愛用され，それを翻して教室へ行かれる先生は，学生に負けないくらい溌剌として見えました。お見舞いに伺った際に，先生は御自身の病気をよく理解されており，「もう一度教壇に立ってから，大学を去りたい」と強い口調で言われたことが，今でも耳に残っております。大学生の学力低下が問題になり，大学教員も研究だけでなく教育にも一層力を入れなければならない状況の下，教育熱心であった先生を失ったことは，残念だというような言葉のみでは言い尽くせない，悔やんでも悔やみきれないもどかしさが残ってしまいます。

先生は，九州男児で豪快な面がおありかと思う反面，非常に繊細な面もお持ちであり，話の途中で，はにかむような話し方をされることもよくありました。お酒をこよなく愛され，殆どお一人で静かに楽しむというような飲み方をされておられましたが，興がのれば，大勢の前でも歌を歌われるという面もお持ちでした。絵画にも造詣が深く，ご自宅には，御自身で描かれた絵も架けてありました。

また，悪戯っぽい面もおありになったようで，お亡くなりになってから暫くして，蟹とお猪口を図案化した縁取りのある葉書が送られてきて，みんなが驚かされたということもありました。

松尾力雄教授追悼号の発刊にあたり，ご寄稿を賜った先生方に御礼を申し上げると共に，今，教壇に立てている教員一同は，先生の御遺志を大切にし活動する事をここに誓い，ご冥福を心よりお祈り申し上げたいと思います。

2001年11月

経済学部長　高橋　一馬

無断転載禁止